

平成30年度 研究紀要

平成29・30年度 武蔵野市 教育研究奨励校

武三小の研究

自分の思いや考えをもち、深める児童の育成

～主体的・対話的で深い学びの実現をとおして～

平成31年2月7日（木）

武蔵野市立第三小学校

教育長 あいさつ

武蔵野市教育委員会 教育長 竹内 道則

「主体的・対話的で深い学び」は、新学習指導要領が目指すこれからの時代に求められる資質・能力を育成するための学びです。学習内容を深く理解し、生涯にわたって能動的に学び続けることができるよう、「習得・活用・探究」という学びの過程の中で、本視点に立った授業改善を行うことが求められています。

武蔵野市教育委員会では、平成30年度の基本方針「確かな学力の向上と個性の伸長」の中で、「基礎的・基本的な知識・技能の確かな習得を図るとともに、探究的な活動や協働的な活動を位置付けた学習を充実させ、思考力・判断力・表現力や問題解決能力等の育成に努めること」「子どもたち一人一人への理解を深め、取組状況等を認め励ますことにより、子どもたちの学習意欲を向上させ、主体的に学習に取り組む態度を育むこと」を掲げております。

また、新学習指導要領等に示されている「主体的・対話的で深い学び」に結び付く言語活動の推進を図り、子どもたちの表現力を高める活動を奨励しています。

こうした中、本校は、平成29・30年度 武蔵野市教育研究奨励校として、「自分の思いや考えをもち、深める児童の育成～主体的・対話的で深い学びの実現をとおして～」を研究主題として、二年間にわたって研究を進めてきました。国語科の文学的文章を読み解く授業づくりを中心に「自分の思いや考えをもつ力」「自分の思いや考えを深める力」を育む課題解決的な学習に取り組んだ結果、すすんで学習課題を解決していこうと取り組んだり、自分の考えを深めたり広めたりするために友達と関わったりコミュニケーションを図ったりする児童が増えたと伺っております。

今後、本校の研究成果が武蔵野市の各学校において活用され、各教科・領域等で子どもたちが身に付けるべき資質・能力が育まれることを期待しております。

結びになりますが、本校の研究に対して温かく御指導いただきました明星大学教授 白石 範孝先生をはじめ、御指導いただきました先生方に心より感謝を申し上げます。そして、日々の実践を大切にされながら研究を積み重ねてこられました第三小学校 伊野 啓子 校長をはじめとする教職員の皆様に敬意を表し、あいさついたします。

校長 あいさつ

校長 伊野 啓子

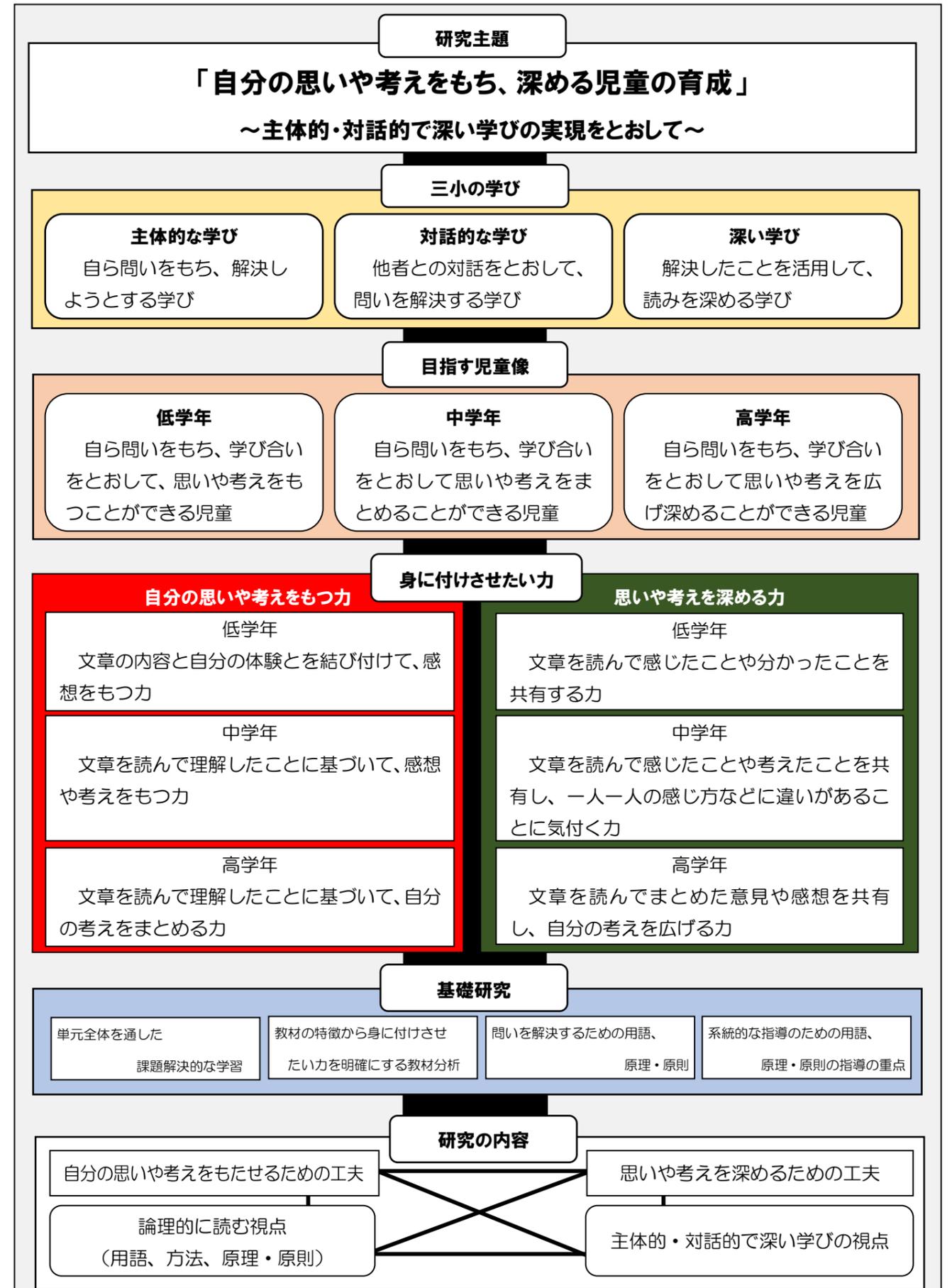
本校では、武蔵野市教育研究奨励校として、平成29年度・30年度と、国語科での校内研究を推進してまいりました。平成28年度までの4年間は、理科・生活科で研究し、問題解決学習や気づきの質を高める学習を学校全体で行い、研究の取組が児童の学習成果につながることを実感してまいりました。また、国立教育政策研究センター学習指導実践研究協力校として算数科の研究授業を毎年3回実施し、校内での算数科の指導の在り方を明確にしてきました。しかし、国語科については、校内研究をしてから10年以上経過しています。国語科の授業でも、課題解決型の授業を行い、主体的・対話的で深い学びを実践する必要があると考え、校内研究に取り組むことにしました。

研究は、国語科の単元全体の教材分析から始めました。教材分析により見えてきた単元の特徴を踏まえて問題を設定し、それに対する各児童の考えの違いから問いを生み出し、課題解決学習を行う単元計画を立てるようにしました。研究授業に限らずに、日常の授業でもこの過程を行いました。当初は、慣れずに難しく感じていましたが、2年目になり、教材分析により授業を組み立てる手法が身に付いてきています。また、児童が課題解決するために、用語や原理・原則を身に付けさせ、それを使って課題解決していく過程も明確になり、発達段階に沿った系統的な指導を目指しています。

本日は、研究の成果を授業でご覧いただけるようにと計画してきました。研究協議会では、先生方のご意見をいただきまして、今後の糧にしていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

最後になりましたが、本研究を進めるにあたりご指導をいただいたすべての先生方及び多大なるご支援をいただきました武蔵野市教育委員会の皆様方に心からお礼を申し上げ、挨拶とさせていただきます。

研究構想図



国語科における単元全体をととした問題解決的な学習

自分の思いや考えをもつ

第一次の重点 主体的な学び

① 課題の提示

課題・・・教師が与えるもの

② 考えの違いから問いをもつ

問い・・・児童がもつもの

③ 共通の土俵にのる



物語の全体像を捉えるための10の観点で読む

人物	がまくん、かえるくん、かたつむりくん
出来事・事件	①2人とも悲しい気持ちで手紙を待つ。 ②親愛なるかえる君へ手紙を書く。 ③かえる君が手紙を書いてがま君に送ったことを告白する。 ④2人とも幸せな気持ちで手紙を待つ。

10の観点についてはP. 13参照

実践例

第2学年 教材名「お手紙」

ぼくは、かえるくんだと思う。

私は、がまくんだと思うよ。

問い

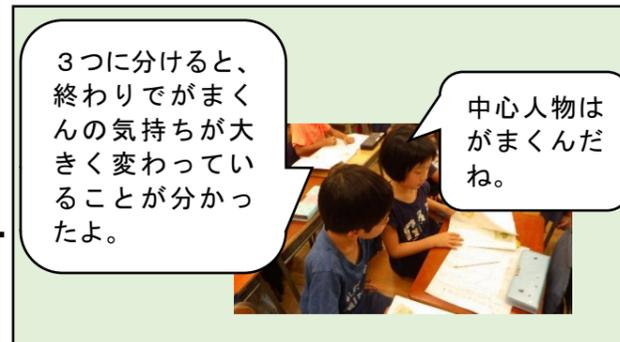
中心人物はがまくんなのだろうか。それともかえるくんのだろうか。

自分の思いや考えを深める

第二次の重点 対話的な学び

④ 原理・原則を使って解決

⑤ 学び合い・修正・つけたし



解決① 構成に着目する

はじめ	中心人物の紹介、状況の説明
なか	出来事や事件が起きる
おわり	中心人物が変容した結果



このお話を3つに分けてみましょう。

原理・原則についてはP. 15、16参照

第三次の重点 深い学び

⑥ 学んだことを活用する

⑦ 振り返る

学んだことを振り返り、原理・原則を定着させる

お話を3つに分けると、中心人物を見つけやすいことが分かったよ。



中心人物がだれなのか見つけるぞ。

学んだことを活用する



教材文の論理を明らかにし、身に付けさせたい原理・原則を明確にする教材分析

教材文を活用して身に付けさせたい原理・原則を明確にするために、10の観点を活用し教材分析を行う。

教材分析

- ①教材文を10の観点で分析をする。(P. 13参照)
- ②教材文がもっている論理を明らかにする。
- ③教材分析図にまとめる。

教材研究

- ④学習指導要領に示された資質・能力を身に付けさせるために、どのような原理・原則を活用するのかを明確にする。(学習指導案参照)
- ⑤指導計画を立てる。(学習指導案参照)

10の観点による分析

人物	中心人物：太一 対人物：おとう 与吉いさ
出来事・事件	追い求めていた瀬の主と対峙するが、仕留めなかったこと。
中心人物のこだわり	一人前の漁師になること。
一文で表す	一人前の漁師になりたかった太一が、大魚が海の命だと思ったことによって、村一番の漁師であり続けた話。

10の観点の中から、いくつかの観点を使って分析をする。毎回全ての観点をを使うわけではない。

実践例

第6学年 教材名「海の命」

論理①

クライマックスを捉えることで、中心人物の変容とそのきっかけを捉えることができる。

論理②

中心人物のこだわりを捉えることで、作品の主題に迫ることができる。

論理③

「海の命」という題名に、作者の思いやメッセージが込められている。

論理・・・教材文がもっている特徴や仕組みのこと。

終わり⑥	中⑤④③②					はじめ①								
やがて	ある日	ある朝	もたった	つて何年	弟子にな	年の夏	卒業する	中学校を	夕方	ある日の	場面	出来事	太一	おとう・与吉いさ
<ul style="list-style-type: none"> ・太一も家庭をも ・ち、村一番の漁師であり続けた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・父の海にやってくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・与吉いさ死ぬ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ととう父の海にやってくる。 ・二十キロぐらいのクエに太一は興味をもてなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ととう父の海にやってくる。 ・二十キロぐらいのクエに太一は興味をもてなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・与吉いさに「村一番の漁師」と認められる。 ・与吉いさ死ぬ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ととう父の海にやってくる。 ・二十キロぐらいのクエに太一は興味をもてなかった。 								
<p>クライマックス</p> <p>・太一の変容 ・本当の村一番の漁師とは何かがわかった。 ・父や与吉いさの教えが分かった。</p>	<p>・クエ(瀬の主)に出会う。</p>	<p>・ととう父の海にやってくる。</p>	<p>・ととう父の海にやってくる。</p>	<p>・ととう父の海にやってくる。</p>	<p>・ととう父の海にやってくる。</p>	<p>・ととう父の海にやってくる。</p>	<p>・ととう父の海にやってくる。</p>	<p>・ととう父の海にやってくる。</p>	<p>・ととう父の海にやってくる。</p>	<p>・ととう父の海にやってくる。</p>	<p>・ととう父の海にやってくる。</p>	<p>・ととう父の海にやってくる。</p>	<p>・ととう父の海にやってくる。</p>	<p>・ととう父の海にやってくる。</p>
	<p>・水の中で太一はぐっどほほえみ、口から銀のあぶくを出した。もりの刃先を足の方に向けて、クエに向かってもう一度えがおを作った。</p> <p>・おとう、ここにおられたのですか。また会いに来ますから。</p> <p>・大魚はこの海の命だと思えた。</p>	<p>・これが自分の追い求めてきたまぼろしの魚、村一番のもぐり漁師だった父を破った瀬の主なのかもしれない。</p> <p>・この魚をとらなければ、本当の一人前の漁師にはなれないのだと泣きそうになる。</p>	<p>・ととう父の海にやってくる。</p>	<p>・ととう父の海にやってくる。</p>	<p>・ととう父の海にやってくる。</p>	<p>・ととう父の海にやってくる。</p>	<p>・ととう父の海にやってくる。</p>	<p>・ととう父の海にやってくる。</p>	<p>・ととう父の海にやってくる。</p>	<p>・ととう父の海にやってくる。</p>	<p>・ととう父の海にやってくる。</p>	<p>・ととう父の海にやってくる。</p>	<p>・ととう父の海にやってくる。</p>	<p>・ととう父の海にやってくる。</p>
	<p>・太一のこだわり ・村一番の漁師、一人前の漁師になる。大きな魚(父を殺した大魚)をとる漁師。</p>	<p>・太一のこだわり</p>	<p>・太一のこだわり</p>	<p>・太一のこだわり</p>	<p>・太一のこだわり</p>	<p>・太一のこだわり</p>	<p>・太一のこだわり</p>	<p>・太一のこだわり</p>	<p>・太一のこだわり</p>	<p>・太一のこだわり</p>	<p>・太一のこだわり</p>	<p>・太一のこだわり</p>	<p>・太一のこだわり</p>	<p>・太一のこだわり</p>

海の命 教材分析図

身に付けさせたい原理・原則
○中心人物のこだわりに着目する。 ○クライマックスに着目する。

問いを解決するための用語、原理・原則

用語………問いを解決するために必要な言葉。言葉の定義を明確にすることで、用語を活用して問いを解決したり、自分の考えを伝えたりすることができる。

原理・原則…多くの文章に当てはまる文章を読むための技術のことである。問いを解決するためのものさしの役割を果たす。

学年	学期	教材文	単元全体の問い	用語 <small>赤字は学年ごとの指導の重点</small>	原理・原則 <small>赤字は学年ごとの指導の重点</small>
六年	1学期	カレーライス	この物語を一文で表すとどのように表せるのだろうか。	山場・クライマックス、 主題	一文で表す、中心人物のこだわりに着目する、クライマックスに着目する
	2学期	やまなし	「五月」と「十二月」は、それぞれ何を表してるのだろうか。	主題	構成に着目する、 対比に着目する
	3学期	海の命	太一はどのように変容したのだろうか。	人物関係図、山場・クライマックス、 主題	一文で表す、中心人物のこだわりに着目する、クライマックスに着目する
五年	1学期	なまえつけてよ	題名が平仮名なのはなぜだろうか。	人物関係図	一文で表す、 表記に着目する
	2学期	大造じいさんとガン	大造じいさんの心情が変わったところはどこだろうか。	山場・クライマックス、心情・情景	クライマックスに着目する、視点の転換に着目する、情景描写に着目する
	3学期	わらぐつの中の神様	中心人物はマサエなのだろうか。おみつさんののだろうか。	山場・クライマックス	構成に着目する、伏線に着目する、語り手に着目する
四年	1学期	白いぼうし	お話を3つに分けると、どこで分けられるのだろうか。	ファンタジー、 伏線	場面に着目する、構成に着目する、 伏線に着目する
		一つの花	ゆみ子にとって「一つの花」はどんな花だったのだろうか。	心情・情景、題名	構成に着目する、対比に着目する
	2学期	ごんぎつね プラタナスの木	なぜごんは「つぐない」をしたのだろうか。 おじさんは、プラタナスの木なのだろうか。	語り手・視点、 説明・描写、伏線 語り手・視点、 伏線	動きを表す言葉に着目する、設定に着目する、中心人物のこだわりに着目する 構成に着目する、中心人物のこだわりに着目する、 伏線に着目する
3学期	初雪のふる日	お話を3つに分けると、どこで分けられるのだろうか。	語り手・視点、ファンタジー	一文で表す、場面に着目する、構成に着目する	
三年	1学期	きつつきの商売	「きつつきの商売」はどんなお話なのだろうか。	基本構成、題名	一文で表す、場面に着目する
		もうすぐ雨に	もうすぐ雨に「なる」のだろうか。「ならない」のだろうか。	基本構成、ファンタジー、題名	場面に着目する、 構成に着目する
	2学期	ちいちゃんのかげおくり 三年とうげ	ちいちゃんのかげおくりは、どんなかげおくりだったのだろうか。 このお話は何を伝えたいのだろうか。	基本構成、説明・描写、語り手・視点、題名 基本構成、説明・描写	一文で表す、 語り手に着目する 場面に着目する、繰り返しに着目する
3学期	モチモチの木	豆太は変わったのだろうか。それとも、変わっていないのだろうか。	基本構成、説明・描写、小見出し、語り手・視点	一文で表す、中心人物のこだわりに着目する	
二年	1学期	ふきのとう	誰の会話なのだろうか。	場面、地の文・会話文	場面に着目する
		スイミー	登場人物はだれなのだろうか。	事件（出来事）、心情・情景、変容	場面に着目する
	2学期	お手紙 わたしはおねえさん	中心人物はがまくんなのだろうか。かえるくんなのだろうか。 すみれちゃんは、変わったのだろうか。変わってないのだろうか。	事件（出来事）、心情・情景、変容、一文で表す 事件（出来事）、心情・情景、変容、一文で表す	一文で表す、場面に着目する 一文で表す、場面に着目する、会話文に着目する
3学期	スーホの白い馬	スーホと白馬は、ずっと一緒にいられたのだろうか。	事件（出来事）、心情・情景、変容、一文で表す	一文で表す、場面に着目する、中心人物のこだわりに着目する	
一年	1学期	はなのみち	場面ごとの季節は、何だろうか。	登場人物、場面、おもしろさ	場面に着目する
		おむすびころりん	繰り返しの部分の音読は同じでよいのだろうか。	登場人物、場面、おもしろさ	繰り返しに着目する
		おおきなかぶ	登場人物は、誰だろうか。	登場人物、場面、地の文・会話文、おもしろさ	繰り返しに着目する
	2学期	ゆうやけ	きつねの子にとって、新しいズボンはどんなものだろうか。	登場人物、場面、中心人物・対人物、地の文・会話文	場面に着目する
		くじらぐも	お話を3つに分けると、どのように分けられるのだろうか。	登場人物、場面、地の文・会話文	繰り返しに着目する
	3学期	たぬきの糸車 だっだっのおばあさん	なぜ、たぬきは、いとをつむいだのだろうか。 おばあさんは本当に5歳になったのだろうか。	登場人物、場面、地の文・会話文 登場人物、場面、中心人物・対人物、地の文・会話文	場面に着目する 中心人物のこだわりに着目する

基礎研究④

系統的な指導のための用語、原理・原則の指導の重点(文学的文章)

教材分析により教材文の論理を明らかにした上で、学習指導要領に示された資質・能力を身に付けさせるために、指導する用語と、身に付けさせる原理・原則を学年ごとの指導の重点として整理した。

重点を置くことで、問いを解決するために必要な用語、原理・原則を計画的・系統的に身に付け、身に付けた原理・原則を次の学習、次の学年でも活用し、さらに学びを深めていくことができると考えた。

第六学年

原理・原則：対比に着目する

用語：主題

第五学年

原理・原則：クライマックスに着目する、視点の転換に着目する、表記に着目する、情景描写に着目する

用語：人物関係図、山場・クライマックス

第四学年

原理・原則：設定に着目する、伏線に着目する、動きを表す言葉に着目する

用語：伏線、説明・描写

第三学年

原理・原則：構成に着目する、語り手に着目する

用語：基本構成、題名、説明・描写、ファンタジー、語り手・視点、小見出し

第二学年

原理・原則：一文で表す、会話文に着目する

用語：事件(出来事)、心情・情景、変容、一文で表す

第一学年

原理・原則：繰り返しに着目する、場面に着目する、中心人物のこだわりに着目する

用語：登場人物、中心人物・対人物、場面、地の文・会話文、おもしろさ

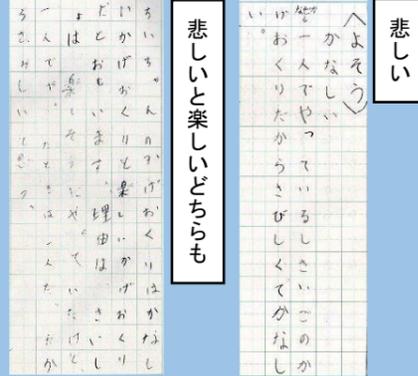
考えの違いから問いをもつ

提示された課題に対する考えの違いから、「何が正しいのだろうか?」という問いをもち、この問いを解決するために、主体的に物語を読むことができる。

実践例 第3学年 教材名「ちいちゃんのかげおくり」
課題 ちいちゃんにとっての「かげおくり」の意味を考える

かげおくりをすると、家族に会えるから、うれしいかげおくりだと思う。

ぼくは、悲しいかげおくりだと感じたよ。



問い ちいちゃんのかげおくりは、うれしいかげおくりなのか、悲しいかげおくりなのか。

実践例 第6学年 教材名「カレーライス」
課題 物語を一文で表す

ひろしがお父さんと仲直りする話だと思うよ。



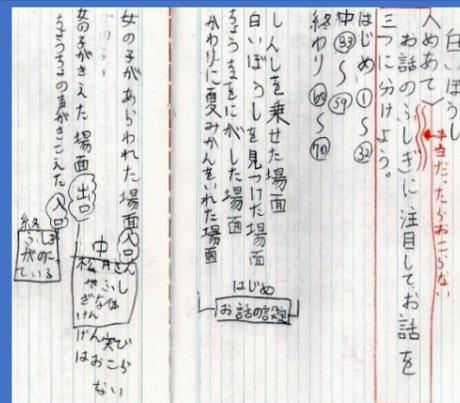
ひろしがお父さんに成長を認められる話じゃないかな。

問い カレーライスを一文で表すと、どうなるのだろうか。

実践例 第4学年 教材名「白いぼうし」
課題 物語を3つに分ける

ここからここまでが「中」の部分だと思うよ。

そうかな。ぼくは、ここまでが「中」だと思うな。



問い 白いぼうしを3つに分けると、どこで分けられるのだろうか。

実践例 ひまわり学級 教材名「サーカスのライオン」
課題 物語の印象について考える

ジンザは死んでしまうから悲しいお話だよ。



本当に悲しいお話なのかな。

問い このお話は悲しい話なのだろうか。

共通の土俵にのる

物語の全体像を捉えるための10の観点を活用して物語を読むことで、児童全員が共通理解をした上で、問いの解決に向かうことができる。

10の観点

10の観点を捉えた物語の全体像

	観点	内容
①	設定	時、場所、季節、時代等。
②	人物	登場人物、中心人物、対人物、語り手。
③	出来事・事件	物語の中で起きたこと。
④	中心人物の変容	場面の移り変わりとともに変わる人物の心情の変化。
⑤	三部構成	はじめ、中、終わり。
⑥	因果関係	中心人物の変容に関わる出来事や事件、人物の行動。
⑦	お話の図・人物関係図	出来事や事件、登場人物相互の関わり方、それぞれの役割を図にまとめたもの。
⑧	繰り返し	表記や構成の繰り返しの表現。
⑨	中心人物のこだわり	物語の中で中心人物がもち続ける思い・願い。
⑩	一文で表す	「中心人物が、～によって、～のように変容する話。」と、物語の全体を一文で短くまとめる。

実践例		第1学年 教材名「おおきなかぶ」
設定		ロシアの民話。
人物		おじいさん、おばあさん、まご、いぬ、ねこ、ねずみ。
出来事・事件		①おじいさんが、かぶのたねをまく。 ②おじいさんが、できたかぶをぬこうとする。 ③ねずみがきて、おじいさんは「やっと」かぶをぬくことができた。
因果関係		おじいさんが丹精を込めて育てたかぶは、おじいさんだけではぬけないほど大きくなった。
繰り返し		うんとこしょ、どっこいしょ、～が～をひっぱって、～かぶはぬけません。
中心人物のこだわり		あまいかぶをぬきたい。

実践例		第4学年 教材名「ごんぎつね」
人物		中心人物：ごん 対人物：兵十 語り手：ごんに寄り添っているが、最後の場面では、兵十の視点への転換がある。
中心人物の変容		兵十と心が通じ合わなかったが、ひたむきにつぐないをすることで心が通じ合った。
中心人物のこだわり		つぐないをすること。「ひとりぼっちではない。」というメッセージを兵十に伝えること。

原理・原則による解決

物語の原理・原則を活用し問いを解決することで、原理・原則の活用の仕方を身に付けるとともに、学んだことを活用し、さらに思いや考えを深めることができる。

	原理・原則	解決できること
①	一文で表す	<ul style="list-style-type: none"> 中心人物がどのような状況なのかを読むことができる。 変容のきっかけを捉えることができる。 中心人物がどのように変容したのかを捉えることができる。
②	設定に着目する	<ul style="list-style-type: none"> 物語全体の様子をつかむことができる。 登場人物の人物像を明らかにすることができる。
③	語り手に着目する	<ul style="list-style-type: none"> 語り手の視点が人物の内側にある場合 人物の心情を捉えることができる。 語り手の視点が人物の外側にある場合 人物の心情や様子を客観的に捉えることができる。
④	中心人物のこだわりに着目する	<ul style="list-style-type: none"> 作品の主題に迫ることができる。
⑤	繰り返しに着目する	<ul style="list-style-type: none"> 作品のおもしろさを感じることができる。 強調したいことが見える。
⑥	視点の転換に着目する	<ul style="list-style-type: none"> クライマックスを特定することができる。
⑦	クライマックスに着目する	<ul style="list-style-type: none"> 作品の山場を捉えることができる。 中心人物の変容やその要因を捉えることができる。 作品の主題を捉えることができる。
⑧	構成に着目する	<ul style="list-style-type: none"> 語り手の存在や位置、視点を意識することができる。 物語の設定を捉えたり、対比構造を捉えたりすることができる。 登場人物の変容やきっかけが捉えやすくなる。

	原理・原則	解決できること
⑨	動きを表す言葉に着目する	<ul style="list-style-type: none"> 自動詞に着目 意思の強さ、存在の大きさ、確かさなどを捉えることができる。 他動詞に着目 他者との関係を明らかにすることができる。 副詞に着目 心の動きを捉えることができる。
⑩	会話文に着目する	<ul style="list-style-type: none"> 登場人物を捉えることができる。 登場人物の心情を捉えることができる。 心情の変化を捉えることができる。
⑪	情景描写に着目する	<ul style="list-style-type: none"> 登場人物の心情を捉えることができる。
⑫	表記に着目する	<ul style="list-style-type: none"> 作者の強調したいことを捉えることができる。
⑬	場面に着目する	<ul style="list-style-type: none"> 物語のあらすじを捉えることができる。 中心人物の変容を捉えることができる。 中心人物のこだわりを捉えることができる。
⑭	伏線に着目する	<ul style="list-style-type: none"> 中心人物の変容に関係する人物の行動や出来事・事件を捉えることができる。 作品が大切にしていることに気付くことができる。
⑮	対比に着目する	<ul style="list-style-type: none"> 強調されたものを読むことができる。 象徴されたものを読むことができる。

対話的な学びによる解決

解決すべき問いがあることで、対話の必然性が生まれるとともに、対話の視点が明確になり、自分の思いや考えを深めることができる。

考えの違いから問いを設定する ペア・グループでの対話的な学び

ポイント

- ・ 友達の考えを尊重して聞く。
- ・ 根拠を明らかにして話す。
- ・ 友達の考えを受けてつないで話す。

全体での対話的な学び

ポイント

- ・ ペア、グループで不十分なところを補う。
- ・ 叙述に目を向ける。
- ・ 修正や付け足しを行い、自分の考えを再構築する。

自分の思いや考えの深まり

戦争中と戦後の場面を比べて、変わったことは何だろう。

お父さんが
いなくなった
から、幸せ
ではないと
思う。



暮らしが豊
かになっ
て、幸せに
なった。

問い 戦争が終わって、ゆみ子は幸せになったのか。

実践例

第4学年 教材名「一つの花」

〇〇さんが、
言っていた
ように、食べ
物が肉や魚
になったか
ら、前よりは
幸せだと思
うよ。



〇〇さんの
考えも分か
るけれど、お
父さんがい
ない寂しさ
はあると思
うよ。

本文の「でも、～」という叙述に目を向けてみよう。

「でも、～」の
後には、コス
モスの花に包
まれた様子が
描かれてい
るから、幸
せになった
と思いました。



皆は、〇〇さん
の考えにつ
いてどう思
う？

はじめは幸せでは
ないと思っていた
けれど、〇〇さん
が言うように、「
でも、～」の
後の叙述にある
スキップをする
ゆみ子の姿から、
幸せになった
のだと思いま
した。

成果と課題

<成果>

- ・用語を定義し、原理・原則を活用して問いを解決する学習によって、毎時間取り組むことが明確になり、目標をもって学習に取り組んでいる児童が87%となるなど、自ら問いをもとうとする姿が見られた。
- ・考えの違いから問いをもたせることで、必然性のある対話的な学びを実現することができ、対話をとおして、新しい考えをもったり考えを深めたりすることができる児童が80%となるなど、思いや考えを深める力が身に付いた。
- ・単元全体をとおした問題解決的な学習が定着し、多くの児童が自分の思いや考えをもつことができるようになった。
- ・1学期に学習した原理・原則を2学期の学習に活用する姿が見られた。

<課題>

- ・自分の考えをもっているが、すすんで発言しようとしている児童は77%であった。対話的な学びをとおして、自分の思いや考えを深めさせるために、必然性のある対話的な学びをさらに追究していく。
- ・全体での対話を一層深めるための教師の働きかけを工夫する。
- ・用語、原理・原則の指導の重点を吟味し、三小の児童の実態に合わせた指導を行う。

※数値は2学期末に行った意識調査の全学年の平均値

謝辞

副校長 田村 秀明

本校は平成29・30年度 武蔵野市教育研究奨励校の指定をいただき、国語科の文学的文章を読む学習において3つの学び（「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」）を、本校の学びとして位置付け、今日まで研究を進めてまいりました。研究主題を「自分の思いや考えをもち、深める児童の育成」と設定し、原理・原則を用いて問題解決を行う児童の姿、自分なりの考えを児童が互いに伝え合って学び合う姿を追究しました。特に、「考えの違いから問いをもたせる」授業展開の工夫は、児童に主体的な問いを生じさせ、児童相互の主体的で対話的な学び合いが確実に行われるようになりました。さらに児童一人一人の問題解決の力を高めるべく、今後も研鑽を続けます。終わりに本研究を進めるにあたり、ご指導いただいた講師の先生方、武蔵野市教育委員会の皆様、ご協力いただいた地域・保護者の皆様に心より感謝申し上げます。

ご指導いただいた講師の先生方

明星大学	教授	白石 範孝 先生
晃華学園小学校	校長	田島 亮一 先生
国語教育科学研究会	副会長	藤井 英子 先生
東京都立小金井特別支援学校	専任特別支援コーディネーター	西村 伸子 先生
東京都立石神井特別支援学校	特別支援教育コーディネーター	松本 貴子 先生

研究に携わった教職員

◎研究主任 ○研究推進委員

校長	伊野 啓子	副校長	田村 秀明	副校長	細谷 祐造	習熟度別	○藤間 研吾
1年	佐藤 美樹	4年	山口 紘平	ひまわり学級	荒木 達也	事務	金子 努
	串間 夏子		○和田 麻貴		○野村 彩子	事務	宮本 由紀子
	草野 さやか		○岩瀬 直子		工藤 祥太	事務	小林 祐子
2年	○中村 慶子	5年	小林 元	図工	辰巳 麻世	用務主事	田中 裕治
	川崎 伸広		◎河野 和顕	音楽	西山 徹志	用務主事	隠岐 正治
3年	松岡 俊介	6年	羽柴 麻美	養護	北川 美知子	育休	伊藤 みどり
	○樋川 雅乃		塩田 有紀	非常勤教員	清水 聡美		

【平成29年度 研究に携わった教職員】

古山 誠子 豊田 久美 岩崎 洋子 中込 鉄平 澤本 剛知